

じゅうぜん通信

vol.04

2025年 2月号

TAKE FREE

Happy
New year
2025



特集

院長・各部門 ご挨拶と新年の抱負

CONTENTS

- P1 院長・各部門のご挨拶と新年の抱負
- P3 外科専門医コラム
「当院の外科手術の近況報告」
- P5 笠理事長連載 - その27「ウイルス」

無料低額診療事業について

経済的な理由によって、必要な医療を受ける機会が制限されることがないように医療費の免除を行う制度です。



このようなことでお困りではないでしょうか？

- 体調が悪いので受診したいが、医療費の支払いが心配
- 医療費の支払いが大きく、生活が困難
- 病気や失業等により収入が一時的に減少し、医療費の支払いが困難

※対象となる方は面談・所得に関する審査が必要になります。



お問い合わせ



医療福祉相談室（病院1階受付そば）

電話（代）：095-864-0085

時間：月曜日～金曜日 9：00～17：00

地域包括ケア病棟

地域包括ケア病棟とは、急性期病院、病棟からの患者様の受け入れ（ポストアキュート）、在宅・施設からの緊急時の受け入れ（サブアキュート）の両方に対応した、病院と地域との橋渡しを担う病棟です。退院後に安心して生活が送れるように、患者様とご家族と相談しながら地域の先生方やケアマネージャー、介護施設との連携を図り、多職種協働で退院支援を行っております。またレスパイト入院にも対応しております。



お問い合わせ

地域連携室（直通）

電話（直通）：095-801-2599

時間：月曜日～金曜日 9：00～17：00



ご挨拶と 新年の抱負 2025

院長ご挨拶

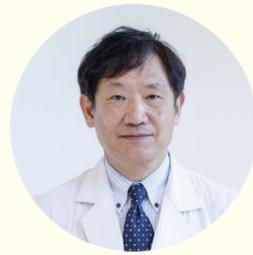
新年明けましておめでとうございます。
皆様には、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。
また、昨年中、当院に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして心よりお礼申し上げます。令和6年は元日から石川県能登地方を震源とする地震が発生、翌2日には羽田空港滑走路での旅客機と海上保安庁機との衝突、また9月には能登半島地震からの復興を目指す被災地で記録的大雨の発生と心痛む災害が続きました。この場を借りて被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。
さて、当院は本年の5月末で病院が新築移転して丸4年を迎えます。ここまでの病院経営は職員皆様の努力によって支えられてきました。しかしながら、国の「働き方改革」推進の政策を踏まえ令和6年4月1日より完全週休2日制の導入による収益減、光熱費の上昇、コロナクラスターの院内発生に加えて、2024年度診療報酬改定で入院基本料の算定ルールがより厳しくなり病院経営は厳しさを増すばかりです。それ故に職員各々が当院の理念である「救急から在宅まで」を目標に、患者さんが満足し職員も満足する病院づくりを実現することにより地域住民の保健・医療・福祉の向上に貢献する、

を目指して一致団結して安全で質の高い医療の提供を目指さなければなりません。職員一人一人が医療の安全に留意して高い倫理観を持って行動して頂きたいと考えます。病院長として、医療安全への意識向上、職員の倫理観、ガバナンスの強化を目指して参ります。

さて、2025年の干支は「巳年」で、蛇を象徴する年です。巳年の持つ意味は1.「再生と復活」蛇が皮を脱ぎ捨てて生まれ変わるように、新しい始まりや変化を意味します。2.「神税と知恵」蛇は神税的な動物とされ、知恵や洞察力を象徴します。そして3.「変容」蛇は姿を変えることができることから、変容や成長を意味するそうです。

2025年は当院にとっても変化・成長の1年となるかもしれません。これまで以上に職員一同頑張ってお参りますので、本年も温かいご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

十善会病院 院長
麻生 憲史
ASOH NORICHIKA



各部門の ご挨拶と 新年の抱負



栄養部

限られた時間を有効活用し、新しい知識の習得に励み、排泄ケアと栄養を繋げて、患者様のお役に立てるよう頑張ります！



放射線科

運動不足解消のために朝の30分のウォーキングと寝前のストレッチを日課とします。



看護部

体調管理・手指消毒・感染対策を徹底し、感染症による病欠0を目指します!! 休暇は有意義に使い、仕事への活力・業務効率化につなげ、とびきりの笑顔で患者様を迎えます！



リハビリテーション科

先輩方の姿を見習い、自分自身成長できるように頑張ります。患者様に寄り添えるようなセラピストを目指します。



在宅総合支援センター

新しいメンバーが増えました！メンバー一同2025年も精進し、利用者様ご家族様が「その人らしく」自宅で暮らし続けられるようお手伝いさせていただきます！



薬剤部

うまくいったときは驕らず謙虚に。うまくいかないときも落ち込まず果敢に。信頼される薬剤師になれるよう、どんなときも一喜一憂せず頑張ります！



健診センター

子どもと一緒にいっぱい遊びます。そのために、皆と協力して、仕事を効率よく勤める努力に邁進したいです。



医事課

医事課として、これまでの業務を見直し業務の効率化、患者サービスの向上を目指してまいります。

外科専門医コラム

消化器外科、肛門科
丸屋 安広
MARUYA YASUHIRO



当院の外科手術の近況報告

01 外科診療体制の充実



新体制となった外科診療チーム

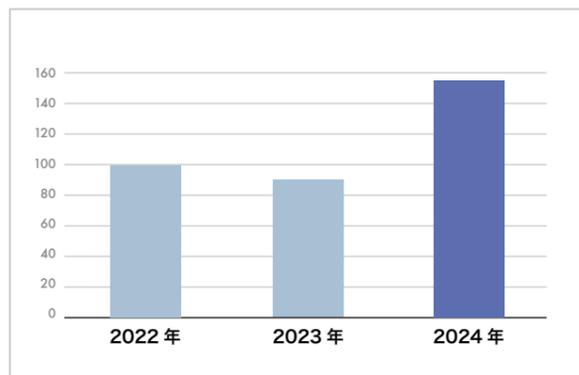
2023年6月までは池松先生、入江先生、虎島先生の3人体制で外科診療を行っていましたが、虎島先生が県議会議員に就任されたため、2023年7月以降は池松先生と入江先生の2人体制となりました。この間、体制に課題を抱えながらも診療を続けてまいりましたが、2024年4月には新たに川原先生と私（丸屋）が加わり、体制が強化されました。この新体制により、患者さん一人ひとりに寄り添いながら、スムーズに手術や診療を行える環境が整いました。地域の皆様に安心できる外科医療が提供できるよう努めてまいります。

02 手術件数の増加

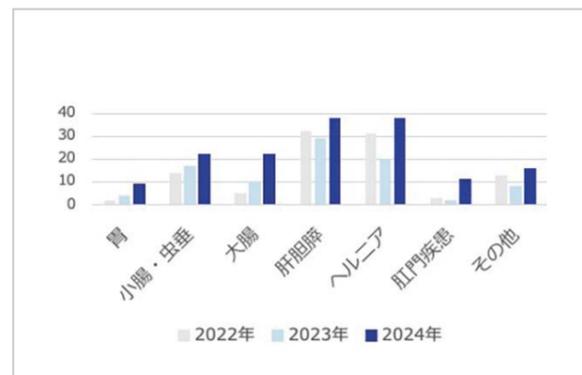
2024年度の手術件数は、2023年度と比較して約1.7倍に増加しました。新たな診療体制のもと、より多くの患者さんに対応できる環境が整ったことが主な要因です。これにより、地域の皆さまに必要なとされる病院としての役割が一層広がっていることを実感しています。今後も手術の質を維持しながら、患者さんにとって安心できる医療を提供してまいります。



手術件数



臓器別の手術件数推移



03 腹腔鏡手術の導入

当院では、患者さんの体への負担を軽減する「腹腔鏡（ふくくうきょう）手術」を積極的に取り入れています。腹腔鏡手術は、お腹に小さな穴を開けて行う方法で、従来の開腹手術に比べて術後の痛みが少なく、回復が

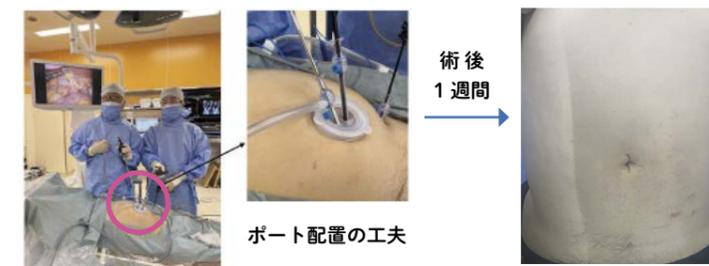
早いのが特徴です。入院期間を短縮し、患者さんが早く日常生活に戻るよう努めています。この方法により、多くの患者さんにとって安心感のある選択肢を提供できています。

04 さらに体に優しい手術への取り組み

当院では、手術の際に器具を挿入するための穴の数を少なくする「Reduced Port Surgery」を行っています。この方法は、患者さんのお腹の傷をできるだけ小さく抑えられる技術で、術後の痛みを軽減し、早期回復をサポートします。特に傷跡を目立たせたくない方や、早い社会復帰を望まれる方にとって、ご満足いただける選択肢となっています。例えば急性虫垂炎の手術では、この手術法を活用し、術後の傷跡が目立たないようにすることが可能です。

Reduced Port Surgery による腹腔鏡下虫垂切除術

※患者さんの理解を得て撮影し掲載



ポート配置の工夫

術後の傷跡も残りません

05 肛門科外来の新設

2024年度に新たに肛門科外来を開設し、痔や肛門周辺の疾患に対する専門的な診療を提供できる体制を整えました。開業医の先生からのご紹介や患者さんからの口コミを通じて受診者数も増加傾向にあります。

肛門疾患でお困りの方はぜひ御相談ください。今後も、患者さんが安心して治療を受けられるよう努め、地域に信頼される医療機関を目指してまいります。

さいごに

当院では、患者さん一人ひとりに寄り添い、安全で安心できる治療を提供することを何よりも大切にしています。診療体制の強化と治療法の工夫を通じて、地域医療に貢献しながら、信頼される病院として努力を続けてまいります。これからもスタッフ一同が力を合わせ、患者さんや地域の皆さまに選ばれる医療機関を目指してまいります。今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



笠理事長連載

無礼印

りゅうの戯言

社会福祉法人十善会・理事長

りゅう のぶとし
笠 伸年

Vol. 27 「ウイルス」

私が医学部2年生の時だったので、「細菌学」という講義があって、ある日の実習でレポートを提出しました。課題が何で、どう書いて提出したのかは当然覚えていませんが、後日採点され返却された私のレポートに赤ペンで「この程度のことしか書けないのか！情けない！！」と大きく書かれていたことは今でも鮮明に覚えています。細菌学の講義の中で多少はウイルスのことも教わったと思いますが真面目に勉強したはずもなく、卒業後に脳神経外科を志しウイルスとはほぼ無縁

な医療に携わってきた私は当然ながらウイルスに関してど素人であり、ネット検索であらゆる情報が得られる現在では私よりも豊富な知識を持つ一般の方が多くいらっしゃるでしょう。

そんなウイルスに疎い私が最近読んで、ほ〜！と感心した本が講談社 BLUE BACKS の「疲労とはなにか すべてはウイルスが知っていた」です。ウイルスど素人の私には難解な文章も一部に有り、曲解や誤謬もあるかもしれませんが、疲労の定義、疲労感の定量的測定、うつ病や慢性疲

労症候群、新型コロナ後遺症との類似性などについて書かれてあり、それらにウイルスが大きく関与しているのだそうです。現状最先端でも研究は道半ばであり、この疾患の原因があつたウイルスでメカニズムはこうだ！などと明確にわかっていることはごく僅かとのこと。分子生物学が進歩した現代ではそんなもん調べればすぐわかるんじゃないか？と思いがちですが、外から感染するウイルスのみではなく、幼少時から持続感染、潜伏感染しているウイルス、さらには体内にいる細菌（多くは腸

内細菌）に感染したウイルスも疾患に関与している可能性があり、あまりに種類が多く、膨大な数で因果関係を突き止めるのは非常に困難とのこと。面白かったのは外国人の多くは疲労を認めたがらない、疲労は自己管理のできない弱い人間の証であり自分は疲労なんかしない！疲労は不名誉である！と考えるのだそうです。したがって外国では疲労に関する研究が遅れており日本がリードしている、昨今の新型コロナ後遺症が慢性疲労症候群に非常に似ていることから疲労の研究が注目され始めたばかりとのことでした。外国人に労いの気持ちを込めて「お疲れ様でした！」と言ったら怒られるかもしれませんね。

そもそもウイルスとはどんなものなのでしょうか？ウイルスとはDNAやRNAなどの遺伝情報を持つ複合体であり、生物の細胞に感染してその機能や構造を利用して増殖します。ウイルスのみでは増殖できません。遺伝情報を持ち進化し得るものを生物と定義するならば生物であり、自

己増殖能を持つものを生物とすれば非生物なのだそうです。地球上の至る所に多種多様なウイルスが存在し、一番多いのは細菌に感染するウイルスとのこと。海洋中にも約10の30乗個のウイルスが存在し、それを全て1列に並べるとその長さは凡そ1000万光年だそうで想像もつきません。また人間の遺伝情報にも大きく関わっているそうです。約38億年前に一つの細胞として誕生した（であろう）生物が、どのように進化して行き、いつウイルスが誕生し、それらがどう影響しあつて今の複雑な生態系を構築していったのでしょうか？細胞無しでは増殖できないので生物誕生前にウイルスが存在していたことは無さそうですが、それならばウイルスとは、とある細胞がある時に細胞膜やその他の煩わしい構造物を脱ぎ捨てた異端児なのではないか？自分の遺伝子内に入り込んだウイルスは自分の構成要素と考えても良さそうですが、腸内細菌叢に感染したウ

イルスが脳や身体に多大な影響を及ぼすならば、腸内細菌や細菌内のウイルスは自分の体の一部なのではないか？どこまで自分でどこから自分以外であるという生物個体の明確な境界線はあるのでしょうか？ウイルスを含めた生命の神秘、生物の複雑さ深淵さに改めて驚愕します。

今インフルエンザが猛威を振るっています。新型コロナもインフルエンザに押されながらも感染を拡げています。ウイルスに若干の親しみを覚えつつも、特に医療関係者である我々は感染しないよう、自身が感染しても病院、患者さんに持ち込まないよう細心の注意を払いながら今年も頑張らしましょう。

参考文献：
ブルーバックス B-2248「疲労とはなにか すべてはウイルスが知っていた」 近藤一博 著 講談社